

全国歴史教育研究協議会 令和2年度 第2回全国理事会 次第

- 1 現会長挨拶（2ページ）
- 2 令和元年度会務報告（3ページ）
- 3 令和元年度会計決算報告（4－5ページ）
- 4 令和2年度役員人事（案）（6－7ページ）
- 5 新会長挨拶（8ページ）
- 6 令和2年度顧問（9ページ）
- 7 令和2年度事業計画（案）（10ページ）
- 8 令和2年度予算（案）（11－12ページ）
- 9 第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応（13ページ）
- 10 第62回研究大会（大阪大会）進捗状況（14ページ）
- 11 第63回研究大会（茨城大会）進捗状況（15ページ）
- 12 事務局より
 - （1）役員委嘱状の送付
 - ・8月中に所属校宛に送付する
 - （2）第1回常任理事会の取り扱い
 - ・新型コロナウイルスの感染状況により、会議を中止し持ち回り審議とさせていただく場合がある
 - （3）その他
- 13 各県より
 - ・（神奈川県）関歴研神奈川大会は令和3年3月5日（金）に神奈川県高等学校社会科部会歴史分科会研究大会に合わせて実施予定



全歴研第2回全国理事会に寄せて

全国歴史教育研究協議会前会長 上野 勝敏
(東京都立調布北高等学校長)

全歴研の発展にご尽力賜っている全国の理事の皆様一言ご挨拶申し上げます。

本来なら明日から岩手大会という臨場感ある第2回全国理事会のはずでありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今回実施予定の全国理事会は中止とさせて頂き、持ち回り審議とさせていただきました。同時に岩手大会中止に伴い総会もこれをもって替えることをご了解賜りたいと存じます。

本来、理事会は各理事の皆様には重要会務について慎重なご審議を頂き、各県の状況を情報交換する貴重な場となっていました。やむを得ずの措置になったこと重ねてお詫び申し上げます。ご意見をいただくことがある場合は、是非ご指導賜りたいと存じます。

なお、本来であれば皆様に新年度の常任理事の委嘱状の送付した上でご協力をお願いをすべきところを、順番が逆となったことも重ねてお詫び申し上げます。誠に恐縮ですが、委嘱状はこのあと事務局より送付させていただきますので、宜しくご承知おきくださいませ。

なお、新会長に川瀬徹校長先生が就任されることになります。ご承認下さい。

それでは紙面のご確認をどうぞ宜しくお願い致します。最後に今後も全歴研の活動にご協力いただけることをお願い申し上げて、ご挨拶に代えさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

令和元年度 会務報告

令和元（2019）年

5月22日 第1回全国理事会 場所：東京都立戸山高等学校

- ・平成30年度 会務報告
- ・平成30年度 会計決算（見込み）報告
- ・令和元年度 役員案・事業計画案審議
- ・令和元年度 予算案審議
- ・第60回研究大会（東京大会）の準備状況
- ・第61回研究大会（岩手大会）の準備状況 他

7月23日 第2回全国理事会 場所：中野サンプラザ

- ・第60回研究大会（東京大会）の打ち合わせ・準備 他

7月24日～7月26日 第60回研究大会（東京大会） 場所：中野サンプラザ

- ・7月24日 午前：総会、午後：分科会
- ・7月25日 午前：第1分科会（シンポジウム）、午後：記念講演
- ・7月26日 史跡見学会
 - ・Aコース「嘉納治五郎とオリンピックレガシー～1964年東京オリンピックゆかりの地をめぐる」
 - ・Bコース「船とバスでめぐる大江戸観光～江戸の名所をめぐる」

11月9日 第1回常任理事会 場所：東京都立戸山高等学校

- ・第60回研究大会（東京大会）の反省・決算報告
- ・第61回研究大会（岩手大会）の準備状況 他

令和2（2020）年

1月～2月 各地方研究会の活動報告集約

2月8日 第2回常任理事会 場所：東京都立戸山高等学校

- ・第61回研究大会（岩手大会）の準備状況
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況
- ・研究紀要の編集状況について 他

2月～3月 大学入試センター試験問題検討委員会（日本史・世界史委員会）

3月末以降 『全歴研研究紀要』第56集の刊行

平成31年度 会計報告【7月確定】

全国歴史教育研究協議会

一般会計

《収入の部》

	科 目	予算額	決算額	増減	備 考
1	繰 越 金	2,173,321	2,173,321	0	
2	会 費 収 入	1,250,000	1,428,000	178,000	5000円×250人
3	印 税	1,500,000	763,198	▼ 736,802	山川出版社印税等
4	雑 収 入	300,000	250,020	▼ 49,980	助成金・協賛金(研究報告広告等)・預金利息等
5		3,500,000	3,000,000	▼ 500,000	特別会計大会運営基金より支出
	合 計	8,723,321	7,614,539	▼ 1,108,782	

《支出の部》

	研 究 大 会 費	4,957,490	5,002,016	44,526	
1	謝 礼 金	504,000	778,967	▼ 274,967	講師謝礼・パネリスト謝礼・県外提案者謝礼等
2	旅 費	0	21,900	▼ 21,900	発表者旅費等
3	借 損 料	3,100,000	3,243,734	▼ 143,734	会場使用料・立て看板・音響設備・パソコンレンタル代等
4	研 究 報 告 書	215,000	487,324	▼ 272,324	研究報告書印刷費・資料費
5	大 会 案 内 費	200,000	18,153	181,847	通信費・参加費振込み手数料等
6	消 耗 品 費	100,000	39,085	▼ 60,915	ネームプレート・文房具等
7	予 備 費	838,490	412,853	425,637	運搬費・役員旅費等
	研究 成果 刊 行 費	1,152,000	586,793	565,207	
8	印 刷 製 本 費	700,000	436,040	263,960	紀要第56集
9	編 集 費	150,000	126,867	23,133	テープ起こし代等
10	配 送 費	300,000	22,971	277,029	紀要発送費
11	消 耗 品 費	2,000	915	1,085	電子媒体等
	事 務 局 費	450,000	268,825	181,175	
12	会 議 費	150,000	51,521	98,479	理事会お茶代・交通費・大会打ち合わせ等
13	通 信 渉 外 費	50,000	13,200	36,800	各種文書発送費
14	H P 運 営 費	220,000	201,116	18,884	HP管理業者給与(10,000/月)・通信費等
15	消 耗 品 費	30,000	2,988	27,012	ICレコーダー電池・紙・封筒等
	特 別 会 計	200,000	200,000	0	
16	特 別 会 計	200,000	200,000	0	70周年記念大会基金、および研究大会運営基金として
	予 備 費	1,963,831	6,520	1,957,311	
17	予 備 費	1,963,831	0	1,963,831	
	合 計	8,723,321	5,864,154	2,859,167	

収入総額 7,614,539

支出総額 5,864,154

残金 1,750,385

上記の通り、特別会計の決算報告(7月10日)を致します。

会計担当 鈴木 高志

令和2年7月10日

会計監査 小山 公央

会計監査 高野 修一

平成31(令和元)年度 会計報告【7月確定】

全国歴史教育研究協議会

特別会計

《収入の部》

	科 目	予算額	決算額		増減	備 考
1	繰 越 金	3,670,130	3,670,130		0	
2	一 般 会 計 より 組 入	200,000	200,000		0	大会運営基金・70周年記念大会積み立てとして
3	雑 収 入	500	14	▼	486	預金利息等
	合 計	3,870,630	3,870,144		486	

《支出の部》

	科 目	予算額	決算額			
1	一 般 会 計 へ 組 入	3,200,000	3,000,000	▼	200,000	東京大会運営基金
2	雑 費	5,000		▼	5,000	振込手数料
	合 計	3,205,000	3,000,000		205,000	

収入総額 3,870,144

支出総額 3,000,000

残金 870,144

上記の通り、特別会計の決算報告(7月10日)を致します。

令和2年7月10日

会計担当 鈴木 高志

会計監査 小山 公央

会計監査 高野 修

令和2年7月28日

令和2年度 全国歴史教育研究協議会役員名簿（案）

	氏 名	都道府県	勤務先・職名		氏 名	都道府県	勤務先・職名
会 長	川 瀬 徹	東 京	都立東村山高等学校統括校長	常任理事	上 野 勝 敏	東 京	都立調布北高等学校校長
副会長	大 場 充	東 京	都立稔ヶ丘高等学校統括校長		金 澤 利 明	東 京	都立足立西高等学校校長
	吉 藤 玲 子	東 京	台東区立忍岡小学校校長		濱 田 准 一	東 京	都立若葉総合高等学校校長
	佐 藤 敏 数	東 京	羽村市立第三中学校長		外 川 裕 一	東 京	都立大山高等学校校長
常任理事	長 島 一 浩	神奈川	県立瀬谷高等学校総括教諭		住 吉 貴 之	東 京	都立大島高等学校校長
	坂 本 美知治	岩 手	県立北上翔南高等学校校長		南 和 男	東 京	都立武蔵高等学校校長
	菅 原 一 成	岩 手	県立花巻南高等学校校長		今 井 啓 介	東 京	都立都立墨田川高等学校副校長
	長谷川 伸 大	岩 手	県立花巻南高等学校教諭		佐々木 義 文	東 京	都立豊多摩高等学校副校長
	池 田 実	宮 城	県泉松陵高等学校教諭		佐々木 巧	東 京	都立大山高等学校副校長
	生 駒 忠 夫	茨 城	県立結城第一高等学校校長		杉 山 智 子	東 京	都立豊島高等学校副校長
	新 井 康 芳	茨 城	県立下館第二高等学校校長		日下部 陽一郎	東 京	都立秋留台高等学校副校長
	辻 武 晴	茨 城	県立石岡第二高等学校校長		昆 野 弘 幸	東 京	都立江戸川高等学校副校長
	青 木 茂 美	栃 木	県立大田原女子高等学校校長		関 山 勝 之	東 京	都立大江戸高等学校副校長
	高 橋 浩 昭	群 馬	県立前橋東高等学校校長		水 島 伊 彦	東 京	都立五日市高等学校副校長
	島 村 圭 一	埼 玉	県立不動岡高等学校校長		佐々木 純	東 京	都立葛飾商業高等学校副校長
	韭 塚 雄 一	埼 玉	県立小川高等学校校長		鈴 木 祐 至	東 京	都立大泉高等学校附属中学校副校長
	中 村 修 二	埼 玉	県立羽生高等学校教頭		三 藤 政 義	東 京	都立南多摩中等教育学校副校長
	高 橋 朝 彦	埼 玉	県立熊谷西高等学校教諭		石 田 耕 士	東 京	都立第五商業高等学校副校長
	下 川 隆	埼 玉	県立川越高等学校教諭		高 野 祥 一	東 京	都立三田高等学校副校長
	藤 井 伸 泰	埼 玉	県立熊谷西高等学校教諭		中 家 健	東 京	都立小石川中等教育学校主幹教諭
	多 田 万里子	埼 玉	県立熊谷西高等学校教諭		仮屋園 巖	東 京	都立国立高等学校指導教諭
	宮 谷 浩 司	埼 玉	県立浦和北高等学校教諭		宮 部 精 一	東 京	都立小平高等学校主任教諭
	大 野 圭 一	埼 玉	県立越ヶ谷高等学校教諭		卯 月 誠	東 京	都立北園高等学校主任教諭
	土 屋 徳 郎	千 葉	県立清水高等学校校長		塚 原 直 人	東 京	都立立川国際中等教育学校主幹教諭
	渡 邊 嘉 幸	千 葉	県立大原高等学校教頭		角 田 展 子	東 京	都立青山高等学校指導教諭
	杉 山 芳 寛	千 葉	県立東葛飾高等学校教諭		尾 澤 聡	東 京	千代田区立九段中等教育学校主幹教諭
	渡 邊 力 也	千 葉	県立幕張総合高等学校教諭		風 間 睦 子	東 京	都立日野台高等学校主任教諭
	澤 邊 和 浩	千 葉	県立木更津高等学校教諭		加 藤 健	東 京	都立小岩高等学校主任教諭
	渡 邊 政 治	千 葉	県立千葉西高等学校教諭		野 村 昌 幸	東 京	都立南平高等学校主任教諭
	下 崎 圭 祐	千 葉	松戸市立松戸高等学校教諭		海 上 尚 美	東 京	都立総合芸術高等学校主任教諭
	澤 野 理	神奈川	県立逗子高等学校総括教諭		村 田 聖 士	東 京	都立武蔵村山高等学校主幹教諭
	新 谷 桂	神奈川	県立湘南高等学校教諭		太田尾 智 之	東 京	都立大泉高等学校主任教諭
	鍵和田 武 彦	神奈川	県立上溝南高等学校教諭		中 根 利 和	東 京	都立小金井北高等学校主幹教諭
	中 山 拓 憲	神奈川	県立舞岡高等学校教諭		丸 山 優 介	東 京	都立翔陽高等学校主任教諭
	柴 泰 登	神奈川	中央大学付属横浜高等学校教諭		石 井 研 吉	大 阪	府立長尾高等学校校長
	高 橋 俊 介	神奈川	県立神奈川総合産業高等学校教諭		田 村 健	大 阪	府立守口東高等学校教諭
	宮 本 久 也	東 京	都立八王子東高等学校統括校長		森 井 裕 史	兵 庫	県立宝塚高等学校校長
	糸 井 一 郎	東 京	都立国分寺高等学校統括校長		上 田 義 人	兵 庫	県立御影高等学校教諭
	佐 藤 文 泰	東 京	都立国立高等学校統括校長		則 武 マサル	岡 山	県立瀬戸高等学校教諭

	氏 名	都道府県	勤務先・職名
理 事	渋 川 誠 人	北海道	道札幌北陵高等学校校長
	森 田 勝 博	青 森	県立大間高等学校校長
	佐 藤 誠	宮 城	県古川工業高等学校校長
	近江谷 正 幸	秋 田	県立大曲高等学校校長
	大 隅 晃 弘	山 形	県立霞城学園高等学校校長
		福 島	
	遠 間 春 彦	新 潟	県立佐渡高等学校校長
	山 下 行 雄	富 山	県立大門高等学校校長
	西 野 正 洋	石 川	県立寺井高等学校校長
	谷 口 康 治	福 井	県立丹生高等学校教諭
	佐 野 修	山 梨	県立甲府東高等学校校長
	小 幡 正 樹	長 野	県丸子修学館高等学校校長
	大 矢 晋	岐 阜	県立本巣松陽高等学校校長
		静 岡	
	犬 飼 大 介	愛知(名古屋・瀬戸)	県立長久手高等学校教諭
		三 重	
		滋 賀	
	毛 戸 祐 司	京 都	府立菟道高等学校教諭
		奈 良	
		和歌山	
	竹 島 一 郎	鳥取(東)	県立鳥取東高等学校主幹教諭
		鳥取(西)	
		島 根	
	田 村 繁 樹	岡 山	玉野市立玉野商工高等学校校長
		広 島	
	太郎良 康 幸	山 口	県立光高等学校教諭
	藤 川 卓 司	徳 島	県立海部高等学校校長
	濱 野 圭 司	香 川	県立志度高等学校校長
	山 下 英 雄	高 知	県立城山高等学校校長
	佐々木 恵 次	愛 媛	県立今治東中等教育学校校長
	小 山 潤	福 岡	県立ひびき高等学校校長
	平 川 聡	佐 賀	県立小城高等学校校長
	小野下 和 宏	長 崎	県立松浦高等学校校長
	栗 谷 雅 之	熊 本	県立御船高等学校校長
		大 分	
		宮 崎	
	林 匡	鹿児島	県立穎娃高等学校校長
		沖 縄	

	氏 名	都道府県	勤務先・職名
会計監査 事務局長 事務局会計 事務局	小 山 公 央	東 京	都立つばさ総合高等学校校長
	高 野 修 一	東 京	都立立川国際中等教育学校副校長
	豊 田 基 裕	東 京	都立大江戸高等学校主任教諭
	鈴 木 高 志	東 京	都立八王子北高等学校主幹教諭
	小 粥 久美子	東 京	都立墨田川高等学校主任教諭
	三 好 喜 輝	東 京	都立野津田高等学校主任教諭
	北 村 拓	東 京	都立日野台高等学校主任教諭
	鳥 羽 顕 司	東 京	都立調布北高等学校主任教諭
	箱 崎 純 一	東 京	都立富士高等学校教諭
	中 莖 和 真	東 京	都立大江戸高等学校教諭



ごあいさつ

全国歴史教育研究協議会新会長 川瀬 徹
(東京都立東村山高等学校長)

新型コロナウイルスの影響により、学校もいまだかつて経験したことの無い日々を過ごすこととなりました。多くの課題を克服し、新しい日常を確かに構築するため、どちら様もたいへんお忙しい日々をお過ごしのことと拝察いたします。

この度、上野勝敏会長先生のご指名を受け、全国歴史教育研究協議会会長を引き継ぐこととなりました。地球全体が動揺しているこの時期に、大役を引き継ぐお話をいただき、大いに驚くとともに身の引き締まる思いであります。全歴研にとりましても、岩手大会の中止、この先に計画されている大阪大会、茨城大会さらにその次の東京大会へ向け慎重に歩を進めねばならぬ極めて大切な時期であり、責任の重さを痛感いたします。

さて、第56回研究大会（東京大会、テーマ「国際社会に生きる資質を養う歴史教育を求めて」）実行委員長を東京都歴史教育研究会会長であった平成27年につとめてからすでに5年たちます。私は60歳を超えました。このことを考え、この先にある次の東京大会へ向けて若い優れたリーダーへとバトンタッチするまでの連結器としてご奉仕してまいる所存です。私の会長在任は新リーダーへ継承する限られた期間になるとは存じますが、この老骨に、どうぞ、全国の皆様のご理解ご協力を賜りますよう、心よりお願いいたします。略儀ながらご挨拶に代えさせていただきます。

令和2年度 全国歴史教育研究協議会顧問名簿

氏 名	出身団体		氏 名	出身団体
稲 葉 孝	東 京		鍛 地 秀 和	和歌山
臺 靖	東 京		進 藤 盛 隆	京 都
中 藺 崇	東 京		高 原 將	東 京
望 月 照 和	東 京		石 原 道 明	茨 城
浅 川 浩 二	東 京		飯 田 國 雄	東 京
岡 野 敬 生	東 京		増 田 克 彦	東 京
西 秀 夫	東 京		重 政 文三郎	東 京
小 宮 進	東 京		三 谷 昇	群 馬
高 田 岩 男	東 京		黒 田 比佐雄	東 京
金 井 忠 雄	東 京		豊 田 岩 男	東 京
近 藤 梓	東 京		佐 藤 徹	東 京
滝 沢 順	東 京		鈴 木 健 一	栃 木
後 藤 勝 二	岐 阜		村 岡 薫 郎	東 京
萱 原 昌 次郎	東 京		川 島 敏 俊 夫	神奈川
川 島 次 郎	東 京		大 橋 賢 明	宮 城
猪 俣 士 郎	大 分		長谷川 純 明	東 京
長 田 敬 幸 一	神奈川		勝 部 幸 司	東 京
丸 山 健 良 夫	兵 庫		西 澤 和 博	岡 山
樋 口 幸 男	群 馬		内 田 崎 秀 一	東 京
原 口 英 男	東 京		山 崎 秀 一	東 京
奥 山 裕 次	東 京		竹 内 直 人	東 京
長谷川 良 平	千 葉		仙 田 健 治	東 京
亀 岡 快 侑 悟	東 京		岡 田 勝 治	神奈川
瀬名波 寛	沖 縄		山 田 勝 治	大 阪
山 田 寛	新 潟		蔭 木 原 洋	兵 庫

令和2年度 事業計画（案）

1 全国理事会

第1回 5月20日配信

- ・令和元年度 会務報告
- ・令和元年度 会計決算（見込み）報告
- ・令和2年度 役員案・事業計画案審議
- ・令和2年度 予算案審議
- ・第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況 他

第2回 7月28日配信

- ・第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況 他

2 常任理事会

第1回 11月中 場所：未定

- ・第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況 他

第2回 2月中 場所：未定

- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況
- ・第63回研究大会（茨城大会）の準備状況 他

3 研究大会

第61回研究大会（岩手大会）中止

4 大学入学共通テスト検討委員会（日本史・世界史委員会） 1月下旬～2月

5 『全歴研研究紀要』第57集の刊行 3月

令和2年度 予算案

全国歴史教育研究協議会

一般会計

《収入の部》

	科 目	予算額	決算額	増減	備 考
1	繰 越 金	1,750,385		1,750,385	
2	会 費 収 入	10,000		10,000	岩手大会中止により
3	印 税	1,000,000		1,000,000	山川出版社印税等
4	雑 収 入	0		0	助成金・協賛金(研究報告広告等)・預金利息等
5	特 別 会 計 よ り	500,000		500,000	特別会計大会運営基金より支出
	合 計	3,260,385	0	3,260,385	

《支出の部》

	研 究 大 会 費	500,000	0	500,000	※岩手大会は中止
1	謝 礼 金	0		0	講師謝礼・パネリスト謝礼・県外提案者謝礼等
2	旅 費	0		0	発表者旅費等
3	借 損 料	0		0	会場使用料・立て看板・音響設備・パソコンレンタル代等
4	研 究 報 告 書	500,000		500,000	研究報告書印刷費・資料費
5	大 会 案 内 費	0		0	通信費・参加費振込み手数料等
6	消 耗 品 費	0		0	ネームプレート・文房具等
7	予 備 費	0		0	運搬費・役員旅費等
	研 究 成 果 刊 行 費	952,000	0	952,000	
8	印 刷 製 本 費	500,000		500,000	紀要第56集
9	編 集 費	150,000		150,000	テープ起こし代等
10	配 送 費	300,000		300,000	紀要発送費
11	消 耗 品 費	2,000		2,000	電子媒体等
	事 務 局 費	400,000	0	400,000	
12	会 議 費	100,000		100,000	理事会お茶代・交通費・大会打ち合わせ等
13	通 信 渉 外 費	50,000		50,000	各種文書発送費
14	H P 運 営 費	220,000		220,000	HP管理業者給与(10,000/月)・通信費等
15	消 耗 品 費	30,000		30,000	ICレコーダー電池・紙・封筒等
	特 別 会 計	200,000	0	200,000	
16	特 別 会 計	200,000	0	200,000	70周年記念大会基金、および研究大会運営基金として
	予 備 費	100,000	0	100,000	
17	予 備 費	100,000		100,000	
	合 計	2,152,000	0	2,152,000	

収入総額(案) 3,260,385

支出総額(案) 2,152,000

残金(案) 1,108,385

令和2年度 予算案

全国歴史教育研究協議会

特別会計

《収入の部》

	科 目	予算額	決算額		増減	備 考
1	繰越金	870,144			870,144	
2	一般会計より組入	200,000			200,000	大会運営基金・70周年記念大会積み立てとして
3	雑収入	500			500	預金利息等
	合 計	1,070,644	0		1,070,644	

《支出の部》

	科 目	予算額	決算額			
1	一般会計へ組入	500,000			500,000	岩手大会運営基金
2	雑費	5,000			5,000	振込手数料
	合 計	505,000	0		505,000	

収入総額(案)	1,070,644
支出総額(案)	505,000
残金(案)	565,644

全国歴史教育研究協議会 第 61 回研究大会（岩手大会）誌上発表について

（１）『全歴研研究紀要第 57 集』作成に係るスケジュール

経過報告

- 5 月 13 日（水） 地歴・公民部会第 1 回理事会
- 5 月 15 日（金）～ 29 日（金） 原稿寄稿についてそれぞれの発表者へ打診
- 6 月 1 日（月）～ 9 日（火） 『研究紀要第 57 集』原稿寄稿依頼発出
 - 提案者、シンポジウムパネラーは 10 月 15 日（木）までに岩手大会事務局へ提出
 - 記念講演者、コーディネーター、コメンテーターは 10 月 30 日（金）までに提出
- 11 月 9 日（月） 岩手県高等学校教育研究会歴史部会教員研修会
 - 東北大学大学院経済学研究科教授 小田中直樹先生 講演
 - 岩手大会提案者からの実践報告 ※対象は県内歴部会教員のみ
- 11 月中 岩手大会誌上発表原稿編集・校正作業
- 12 月上旬 岩手大会誌上発表全歴研事務局へ原稿送付

※岩手県高教研地歴公民科『2020 年報社会科研究』に、本県執筆者の原稿を転載する。

（２）その他

- ア 今回の研究紀要執筆者には、次年度大阪大会、さらに茨城大会等での発表の機会を頂けるようご高配の程よろしく願いいたします。なお、その際の派遣旅費等は、主催県大会事務局のご負担となりますことを申し添えます。
- イ 『研究紀要第 57 集』は岩手大会の開催へ向け、新学習指導要領を踏まえた実践課題についての研究成果です。記念講演から第 1～第 5 分科会まで総て大会に即した内容となっておりますので、全国の先生方には是非ご一読いただき、ご指導願えればと思います。

岩手大会テーマ 「新しい歴史教育の実践へ向けて
～「問い」や「主題」を中心に構成する単元学習の展開～」

- 第 1 分科会テーマ 「新しい歴史教育の実践へ向けて」
- 第 2 分科会 「歴史総合へ向けた実践～新しい歴史理解の扉～」
- 第 3 分科会 「日本史探究へ向けた実践～新しい歴史理解に基づく日本史探究～」
- 第 4 分科会 「世界史探究へ向けた実践～新しい歴史理解に基づく世界史探究～」
- 第 5 分科会 「新しい歴史学習の実践～高校歴史学習における ICT 活用の工夫～」

全国歴史教育研究協議会 第62回研究大会（大阪大会）準備進捗状況報告

令和2（2020）年7月15日

全国歴史教育研究協議会 令和2年度 第2回全国理事会

1. 事務局体制

委員長：石井 研吉（府立長尾高校長）

副委員長：内田 正俊（府立福井高校長）・布施 真（大阪市立汎愛高校長）・竹下 健治（昇陽高校長）

事務局長：田村 健（府立守口東高）

副事務局長：宮崎 亮太（関西大学高）

会計：浅田 竜（府立野崎高）

2. 期日 令和3（2021）年7月28日（水）総会・分科会（7月27日（火）に全国理事会を予定）
29日（木）第1分科会・記念講演会
30日（金）史跡見学

3. 大会テーマ 「今、歴史教育のめざすものを問い直す」

4. 分科会・講演会・史跡見学の概要

第1分科会：「教師は歴史教育をどのように学ぶか」

パネリスト：峯 明秀 教授（大阪教育大学）ほか

第2分科会：「歴史総合をどのように学ぶか」

第3分科会：「日本史探究をどのように学ぶか」

第4分科会：「世界史探究をどのように学ぶか」

第5分科会：「教科の枠をこえて、どのように歴史を学ぶか」

※提案者については未確定の部分が残っている。

岩手大会研究紀要執筆者の先生方に大阪大会で発表を行っていただくことも含めて調整中。

※助言者が未定であり、提案にむけた議論を深めるためには早急に内容を詰める必要がある。

史跡見学：A（大阪市内コース）・B（大阪南部コース）の内容を日本旅行と検討中

可能であれば今夏に下見を実施して詳細を決定する予定

講演会：講師は山内 晋次 先生（神戸女子大学文学部教授）

講演テーマについては今後詰める予定。

全国歴史教育研究協議会第 63 回研究大会（茨城大会）準備進捗状況報告

令和 2 年度第 2 回全国理事会資料

1 日程

令和 4（2022）年 7 月 27 日（水）総会・第 2～第 5 分科会

7 月 28 日（木）第 1 分科会（シンポジウム）・記念講演

7 月 29 日（金）史跡見学

[26 日（火）午後に全国理事会を予定]

2 大会テーマ

「新学習指導要領のもとでの歴史教育」（仮）

3 会場

ホテルレイクビュー水戸（ＪＲ水戸駅南口から徒歩 3 分） ※ 仮予約済み

4 記念講演

現在候補者を検討中。準備委員会で検討し、今年度中には依頼、決定する予定。

5 分科会構成

第 1 分科会「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について考える」（仮）

第 2 分科会……歴史総合の実践

第 3 分科会……日本史探究に向けた実践

第 4 分科会……世界史探究に向けた実践

第 5 分科会……新しい歴史学習の実践

※第 1 分科会では、現在のところ、一般社団法人アクティブ・ラーニング協会代表理事の中島博司氏（前茨城県立並木中等教育学校長）による基調講演の後、パネルディスカッションを予定している。

※第 2～第 5 分科会の具体的なテーマについては、現在準備委員会で検討中。

今年 9 月頃には案を決定する予定。

6 史跡見学

茨城県内 2 コースを設定する予定